

図 2-3 自閉的行動特性別「震災後の全般的状態」の平均得点

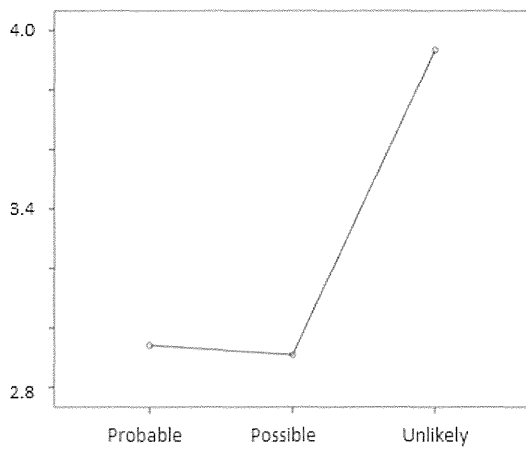
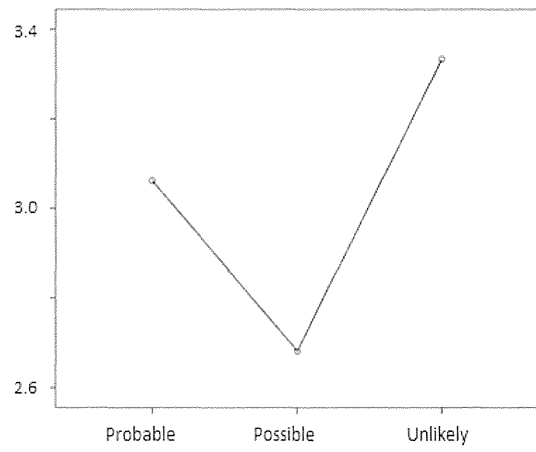
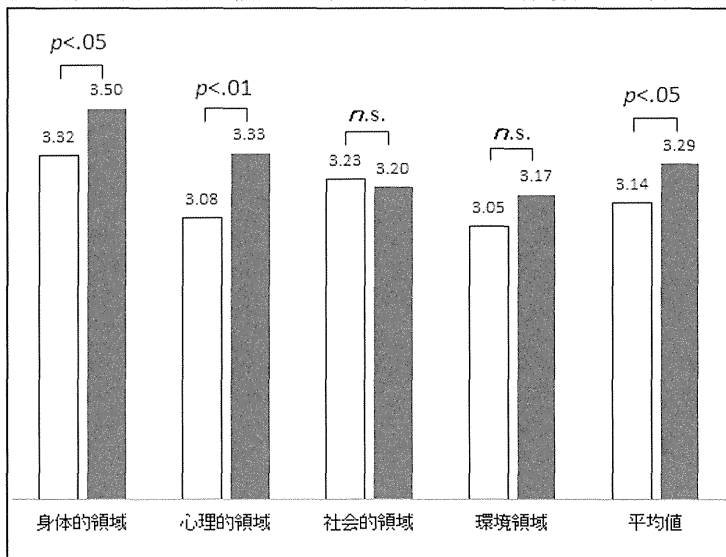


図 2-4 自閉的行動特性別「自傷他害」の平均得点



(図 3) 東日本大震災で被災した発達障害児を持つ保護者と日本人の WHOQOL 平均の比較



震災後のお子様の支援に関するアンケート

記入日：平成 年 月 日

記入者： _____

- ◆ このアンケート用紙と一緒に同封いたしました資料「添付 1）保護者様への説明文書・同意書」を先にお読みくださいますよう、お願い申し上げます。
- ◆ 各項目ごとに質問内容をお読みいただき、ご記入いただきますようお願い致します。

1. 基本情報

氏名 (お子様)	男・女	生年月日	平成 年 月 日生 (歳)
診断名 (お子様)		現住所	〒 - TEL - -
保護者名		避難前住所	

2. 支援内容について

- 1) ご利用されている福祉サービス、医療機関、相談機関等についてお聞かせください。今後、ご利用予定の場合は、利用開始予定日をご記入ください。ご利用されていない場合は、“利用していない”に○を付けてください。また、それぞれの機関におきまして、サービスや支援内容に関する満足度について、「不満～満足」の4つの選択肢の中から最も近いと思われるものを一つ選び、○を付けてください。
※複数箇所に通われており、記入欄が足りない場合は、《別紙1》をご利用ください。

①福祉サービス機関（児童デイサービス等の療育機関） [利用していない]

機関名	利用開始日 (利用開始予定日)	平成 年 月 日	利用回数	() 回/週・月・年
上記機関の <u>内容</u> と <u>満足度</u> について、当てはまる所に○を付け、“その他”の場合には、内容をお書きください。				
<u>内容</u> : [療育 ・ 日中一時支援 ・ その他 ()]				
<u>満足度</u> : [不満 やや不満 やや満足 満足]				

②医療機関（発達障害に関する内容で受診している機関） [利用していない]

機関名	利用開始日 (利用開始予定日)	平成 年 月 日	利用回数	() 回/週・月・年
上記機関の <u>内容</u> と <u>満足度</u> について、当てはまる所に○を付け、“その他”の場合には、内容をお書きください。				
<u>内容</u> : [OT (作業療法) ・ 心理検査 ・ 薬 ・ ST (言語訓練) ・ その他 ()]				
<u>満足度</u> : [不満 やや不満 やや満足 満足]				

③相談機関（お子様に関して相談している機関） [利用していない]

機関名	利用開始日 (利用開始予定日)	平成 年 月 日	利用回数	() 回/週・月・年
上記機関の <u>内容</u> と <u>満足度</u> について、当てはまる所に○を付け、“その他”の場合には、内容をお書きください。				
<u>内容</u> : [就学 ・ 心理検査 ・ その他 ()]				
<u>満足度</u> : [不満 やや不満 やや満足 満足]				

④その他、震災後、お子様に役立った支援がございましたら、機関名と利用回数、内容等をご記入ください。

2) これまで、ご利用された支援やサービスにおいて、あまり役に立たないと感じたことがございましたら、機関名と利用時期や回数、内容等をご記入ください（ご記入いただける範囲の内容でかまいません）。

3. お子様について

1) ご家庭でのお子様の現在の様子について、1～4の中で最も当てはまると思われるものに○を付けてください。

全く心配ない	あまり心配ない	やや心配である	かなり心配である
--------	---------	---------	----------

- ① 情緒面や心理面について（泣きやすい、不安が強い等）・・・・・・・・・・ 1・2・3・4
- ② 行動面について（多動、自傷、他害、集中力がない等）・・・・・・・・・・ 1・2・3・4
- ③ その他、お子様の様子で、心配なことがございましたら、ご自由にお書きください。

2) お子様の現在の様子について、以下の各質問は、どの程度当てはまりますか。1～4の中で最も近いと思われるものに○を付けてください。

全く当てはまらない	あまり当てはまらない	やや当てはまる	当てはまる
-----------	------------	---------	-------

- ① 好みの活動は、誰かと共に行うよりも、一人で行うことを好む。・・・・・・・・ 1・2・3・4
- ② 集団の中で過ごすことよりも、特定の友人(1～2名)と過ごすことを好む。 1・2・3・4
- ③ 相手を気にせず、自分のペースで物事を進めていくことが多い。・・・・・・・・ 1・2・3・4
- ④ 四文字熟語や専門用語などを相手が知っているか否かに関係なく、会話の中で用いることがある。 ・・・・・・・・ 1・2・3・4
- ⑤ 融通がきかず、まじめ過ぎることがある。・・・・・・・・・・・・・・・・ 1・2・3・4
- ⑥ 大勢よりも限られた相手とコミュニケーションをとることを好む。・・・・・・・・ 1・2・3・4
- ⑦ 記憶力が良く、日常生活で役立つことがある。・・・・・・・・・・・・・・・・ 1・2・3・4
- ⑧ パズルや型はめ等が得意である。・・・・・・・・・・・・・・・・ 1・2・3・4
- ⑨ 得意なこと、好きなことがあり、そのことに熱中することが出来る。・・・・ 1・2・3・4
- ⑩ 活動的である（多動含む）・・・・・・・・・・・・・・・・ 1・2・3・4

⑩ 好みの活動から次の活動に移る際、切り替えに時間がかかる。・・・・・・1・2・3・4

3) お子様の行動や症状について、「震災前後」を比較して、の中から最も当てはまると思われるもの1つに○を付けてください。

① 震災後の全般的な状態について

- ・ 非常に悪くなった
- ・ 悪くなった
- ・ 変わらない
- ・ よくなった
- ・ 非常によくなった

② 言葉の数について

- ・ 震災後、言葉が少なくなったり、なくなり、現在もその状態が続いている
- ・ 震災後、一時期、言葉が少なくなったり、なくなったが、現在はもとに戻った
- ・ 震災前と変化はない
- ・ 震災前、言葉はなかったが、現在は言葉がみられるようになった

③ 人との関係について

- ・ 震災前より乏しくなり、現在も続いている
- ・ 震災前より乏しくなったが、今は、震災前と同じ程度に戻った
- ・ 震災前と変化はない
- ・ 震災前よりもむしろ増加している

④ こだわりについて

- ・ 震災後に強くなり、現在も続いている
- ・ 震災後に強くなったが、現在は改善している
- ・ 震災前と変化はない
- ・ 震災前よりも、震災後の方が改善した

⑤ 感覚的な過敏さについて

- ・ 震災後に強くなり、現在も続いている
- ・ 震災後に強くなり、現在は改善している
- ・ 震災前と変化はない
- ・ 震災前よりも、震災後の方が改善した

⑥ 自傷・他害行為について

- ・ 震災後に強くなり、現在も続いている
- ・ 震災後に強くなったが、現在は改善している
- ・ 震災前と変化はない
- ・ 震災前よりも、震災後の方が改善した

⑦ 興奮（パニック）やいらだち、多動について

- ・ 震災後に強くなり、現在も続いている
- ・ 震災後に強くなったが、現在は改善している
- ・ 震災前と変化はない
- ・ 震災前よりも、震災後の方が改善した

⑧ 赤ちゃん返りについて

- ・ 震災後に強くなり、現在も続いている
- ・ 震災後に強くなったが、現在は改善している
- ・ 震災前と変化はない
- ・ 震災前よりも、震災後の方が改善した

⑨ 活動性の低下、無気力状態でボーっとしているような状態について

- ・ 震災後に強くなり、現在も続いている
- ・ 震災後に強くなったが、現在は改善している
- ・ 震災前と変化はない
- ・ 震災前よりも、震災後の方が改善した

⑩ 寝つきが悪い、すぐに目を覚ますなど睡眠の問題について

- ・ 震災後に強くなり、現在も続いている
- ・ 震災後に強くなったが、現在は改善している
- ・ 震災前と変化はない
- ・ 震災前よりも、震災後の方が改善した

4. 福島県発達障がい者支援センター主催の相談会に参加された感想についてお聞かせください。

1) 平成 年 月 日 (場所: 原町保健センター) に行われた相談会について、

最も当てはまると思われるものに○を付け、ご意見がございましたら、() の中にご自由にお書きください。

不 満	や や 不 満	や や 満 足	満 足
--------	------------------	------------------	--------

- ① 相談会場の場所について 1・2・3・4
()
- ② 相談会の時間について 1・2・3・4
()
- ③ 医師の説明について 1・2・3・4
()
- ④ 職員のお子様への対応について 1・2・3・4
()

2) 相談会後の対応について、最も当てはまると思われるものに○を付け、ご意見がございましたら、() の中にご自由にお書きください。

不 満	や や 不 満	や や 満 足	満 足
--------	------------------	------------------	--------

- ① 相談会後の対応について 1・2・3・4
()
- ② 心理所見の受け取り時期について 1・2・3・4
()
- ③ 医療機関紹介について 1・2・3・4
()
- ④ 療育機関の紹介について 1・2・3・4
()

3) 相談会について、良かった点がございましたら、ご自由にご記入ください。

4) 相談会について、改善すべき点や問題と感ずること等がございましたら、ご自由にご記入ください。

5) その他、お気づきの点がございましたら、ご自由にお書きください。

5. 震災後の生活の変化について、「はい」または「いいえ」のいずれかに○を付けて下さい。

(「はい」と回答された場合、“→”のあるものは、[]内の当てはまる箇所に○を付けるか、“その他”の欄にご記入ください。)

- ① 震災直後、体育館などの避難所で過ごされましたか。・・・(はい・いいえ)
- ② 避難所の利用が難しいため、車内で過ごされたことがありましたか。・・・(はい・いいえ)
- ③ 避難を含め、転居されましたか。・・・(はい・いいえ)
「はい」の場合→(0回・1回・2回・3回・4回以上)
- ④ 避難に伴い、転園や転校をされましたか。・・・(はい・いいえ)
「はい」の場合→(0回・1回・2回・3回・4回以上)
- ⑤ 放射能が心配で、日常生活で変化したことはありますか(水や洗濯物、登校等)。(はい・いいえ)
- ⑥ 地震が心配(余震等)で、日常生活で変化したことはありますか。・・・(はい・いいえ)
- ⑦ 一緒に暮らす家族の人数は変化されましたか。・・・(はい・いいえ)
「はい」の場合→(減った・増えた)
- ⑧ 一緒に暮らしていた家族と離れて過ごした期間がありましたか。・・・(はい・いいえ)
- ⑨ 家族と一緒に過ごす時間が変化しましたか。・・・(はい・いいえ)
「はい」の場合→(短くなった・長くなった)
- ⑩ 震災が理由で転居されましたか。・・・(はい・いいえ)
「はい」の場合→[転居先: 仮設住宅、借り上げ住宅、親戚宅、その他()]
- ⑪ 現在お住まいの家は、震災前よりもスペースが狭くなりましたか。・・・(はい・いいえ)
- ⑫ 震災後、お子様が一人で遊べるスペースが少なくなりましたか。・・・(はい・いいえ)
- ⑬ 子どもへの接し方で何か変わったこと(外遊びが減った、一緒に遊ぶことが減った、一人遊びをさせる時間が増えた等)がありますか。・・・(はい・いいえ)

6. 震災後、ご家族の中で a~dのような状態になられた方はいらっしゃいますか。「はい」または「いいえ」いずれかに○を付けて下さい。(「はい」と回答された場合には、[]内の当てはまる箇所すべてに○を付けるか、“その他”の欄にご記入ください。複数回答可。)

- a. 震災後、アルコールの摂取量が増えた。・・・(はい・いいえ)
「はい」の場合→それは、誰ですか？[父・母・祖父・祖母・その他()]
- b. 仕事や学校などの所属機関を移られた、又は辞められた方はいらっしゃいますか。(はい・いいえ)
「はい」の場合→それは、誰ですか？[きょうだい・父・母・祖父・祖母・その他()]
- c. 外出や人と会うことが嫌いになった。・・・(はい・いいえ)
「はい」の場合→それは誰ですか？[父・母・祖父・祖母・その他()]
- d. 家族内でケンカが増えた。・・・(はい・いいえ)
「はい」の場合→誰と誰の間のケンカですか？[きょうだい間・夫婦間・親子間・その他()]
- e. 日頃の家族内のケンカは、暴力的な行動や、強いストレスを受ける発言が飛び交うことがある。
(はい・いいえ)
「はい」の場合→[ケンカの回数:()回] / 日・週・月、程度:()]

7. 心の間診票 (小学生)

◆ Q1～8は、ご回答いただいている方(お母さまなど)自身の最近1ヶ月についてお尋ねします。1～4の最も近いと思われるところに○を付けてください。

よくある	少しは頻発する	頻発する	ほとんどない
------	---------	------	--------

- Q1 いらいらしたり、すぐに腹が立つことがありますか? 1・2・3・4
- Q2 物音にビックとおどろくことがありますか? 1・2・3・4
- Q3 気分が落ち込んでしまうことがありますか? 1・2・3・4
- Q4 日頃やっている仕事に集中しにくいことがありますか? 1・2・3・4
- Q5 突然に震災のことが思い出されることがありますか? 1・2・3・4
- Q6 食欲がない、あるいは食欲がおさえられないことがありますか? 1・2・3・4
- Q7 疲れやすく、体がだるいことがありますか? 1・2・3・4
- Q8 寝つきが悪くなった、あるいは夜中に目が覚めることがありますか? 1・2・3・4

◆ Q9～28は、この一ヶ月のお子さんの様子を思い浮かべ、最も近いと思われるところに○を付けてください。

よくある	少しは頻発する	頻発する	ほとんどない
------	---------	------	--------

- Q9 イライラして怒ったり、癇癪(かんしゃく)を起こしたりする 1・2・3・4
- Q10 勉強や遊びに、集中していない 1・2・3・4
- Q11 一人を嫌がる(登校を嫌がったり、トイレ・お風呂についてくる) 1・2・3・4
- Q12 急な物音にびっくりする 1・2・3・4
- Q13 何か特定の出来事(災害など)がまた起こるのではないかと怖がる 1・2・3・4
- Q14 何かの拍子に強くおびえることがある 1・2・3・4
- Q15 食欲がない日が続く 1・2・3・4
- Q16 特定の出来事(災害など)について繰り返し話す 1・2・3・4
- Q17 何かの出来事(災害など)に関連した遊びをする 1・2・3・4
- Q18 何かを思い出して、取り乱す 1・2・3・4
- Q19 無口になり、話すことを嫌がる 1・2・3・4
- Q20 他の子供がすすんで参加するような新たな活動に興味を持ちにくい 1・2・3・4
- Q21 震災を機に、「赤ちゃん返り(子どもがえり)」がある 1・2・3・4
- Q22 大人にまとわりつくこと(保護者から離れない)がある 1・2・3・4
- Q23 感情表現を抑えている 1・2・3・4
- Q24 特定の出来事(災害など)について、自分を責める 1・2・3・4
- Q25 ある出来事(災害など)を連想させることがあると、腹痛や頭痛や吐き気、だるさなどを訴える 1・2・3・4
- Q26 災害に関してあったいやな出来事を思い出しにくい 1・2・3・4

◆ 普段の生活についてお尋ねします。1～3の中で、最もあてはまるところに○を付けてください。

いつもそうする・ときどきそうする・まったくそうしない

- a.洗濯物は外で干していますか? 1 2 3
- b.換気扇は使っていますか? 1 2 3
- c.窓を開けて部屋の換気をしますか? 1 2 3
- d.お子様の口にする飲み物(水など)を、震災前より気にするようになりましたか? 1 2 3
- e.お子様が外出する際に、放射線対策としてマスクを着用させますか? 1 2 3
- f.お子様に外遊びはさせますか? 1 2 3
- g.食品を購入する際、震災前に比べて産地を気にするようになりましたか? 1 2 3

※ご協力いただき、ありがとうございました。

締切 年 月 日

《別紙1》

① 福祉サービス機関（児童デイサービス等の療育機関）

機関名		利用開始日 (利用開始予定日)	平成 年 月 日	利用回数	()回/週・月・年
上記機関の「内容」と「満足度」について、当てはまる所に○を付け、“その他”の場合には、内容をお書きください。					
内容: [療育 ・ 日中一時支援 ・ その他 ()]					
満足度: [不満 やや不満 やや満足 満足]					

機関名		利用開始日 (利用開始予定日)	平成 年 月 日	利用回数	()回/週・月・年
上記機関の「内容」と「満足度」について、当てはまる所に○を付け、“その他”の場合には、内容をお書きください。					
内容: [療育 ・ 日中一時支援 ・ その他 ()]					
満足度: [不満 やや不満 やや満足 満足]					

② 医療機関（発達障害に関する内容で受診している機関）

機関名		利用開始日 (利用開始予定日)	平成 年 月 日	利用回数	()回/週・月・年
上記機関の「内容」と「満足度」について、当てはまる所に○を付け、“その他”の場合には、内容をお書きください。					
内容: [OT (作業療法) ・ 心理検査 ・ 薬 ・ ST (言語訓練) ・ その他 ()]					
満足度: [不満 やや不満 やや満足 満足]					

機関名		利用開始日 (利用開始予定日)	平成 年 月 日	利用回数	()回/週・月・年
上記機関の「内容」と「満足度」について、当てはまる所に○を付け、“その他”の場合には、内容をお書きください。					
内容: [OT (作業療法) ・ 心理検査 ・ 薬 ・ ST (言語訓練) ・ その他 ()]					
満足度: [不満 やや不満 やや満足 満足]					

③ 相談機関（お子様に関して相談している機関）

機関名		利用開始日 (利用開始予定日)	平成 年 月 日	利用回数	()回/週・月・年
上記機関の「内容」と「満足度」について、当てはまる所に○を付け、“その他”の場合には、内容をお書きください。					
内容: [就学 ・ 心理検査 ・ その他 ()]					
満足度: [不満 やや不満 やや満足 満足]					

機関名		利用開始日 (利用開始予定日)	平成 年 月 日	利用回数	()回/週・月・年
上記機関の「内容」と「満足度」について、当てはまる所に○を付け、“その他”の場合には、内容をお書きください。					
内容: [就学 ・ 心理検査 ・ その他 ()]					
満足度: [不満 やや不満 やや満足 満足]					

11. 厚生労働科学研究費補助金（研究事業）

分担研究報告書

2. 東日本大震災で被災した

知的障害のある人と家族の生活再建にかんする研究 第3報

分担研究者 吉川 かおり 明星大学人文学部教授

研究要旨

A. 研究目的

研究期間全体を通しての目的は、東日本大震災で被災した、知的障害のある人と家族の生活再建支援策について、親の会および本人会活動との関係を含めて考察することである。3年目にあたる平成26年度は、1. 東日本大震災で被災した知的障害者及び家族の生活再建支援策を検討する、2. 震災後の要支援状態を判断するためのガイドライン作りのために、家族及び障害児者の状態を明らかにすることを目的とした。

B. 研究方法

1. ①知的障害者へのヒアリング・試験的グループワークの実施。②親へのヒアリングの実施。
2. 岩手県・宮城県・福島県の被災地域の手をつなぐ育成会会員、福島県沿岸部の特別支援学校児童生徒の保護者を対象としたアンケート調査

C. 研究成果

1. 障害者の生活再建過程においては、当事者抜きで物事が決められてしまい、その結果当事者が不適応を起こす場合も少なくない。障害者の福祉サービス・障害福祉施設等の活用と役割を考える際には、知的障害者及び家族のエンパワメント方法を組み込む必要があり、本研究において示されたエンパワメント・意思決定支援方法及び合理的配慮は、被災後のみならず平時の地域移行支援にも役立つものと考えられる。

2. 被災後の生活再建過程において、障害者親の会としての支援を行う際に、住居などの物的な環境以外に、障害のある子どもとの関わり方や子どもの状態悪化の経験等、特に気をつけるべきタイプがいくつか判明したことは、ガイドライン作りに大いに役立つものと考えられる。また、全体のレジリエンス平均が先行研究に比して低い傾向があり、生活再建支援の前段階として、普段から親の自己有用感を高めストレスマネジメントの方法を見つけ実施できるように支援することの重要性が示唆された。

C. 研究成果

1. (1) 知的障害のある人へのヒアリング・試験的グループワークの実施、(2) 親へのヒアリング

(1) ヒアリング・試験的グループワークについて

①対象・方法

原発による避難をしている社会福祉法人を利用している知的障害者に対し、ヒアリングおよびグループワークによって、生活再建支援策の検討を行った。同法人利用者を対象とした試験的グループワークを H24 年に実施した際、言語操作が苦手なタイプの人でも参加できるプログラムの必要性が分かったことから、今回は絵カードと写真を多く取り入れた。

②倫理面への配慮

趣旨を分かりやすく説明すると共に、知的障害者にはピアアドボケイター（知的障害者同士で権利擁護をする人）及び支援者が同席した。

③結果

ヒアリング対象者は 3 名であり、いずれもグループワークの参加者である。現状や夢を語ってもらう中で、自分の可能性や持てる力を発揮したいという意欲が把握できた。

グループワーク参加者は、軽度から重度の人まで 31 名（男性 13、女性 18）であった。震災前にグループホーム生活をしていた人も含め、現在は入所施設の設備を借りて避難生活をしており、平成 28 年には入所施設機能を維持したまま帰還する予定である。それを踏まえて、A「誰と住みたいか（写真から選ぶ）」、B「何

が必要か（家のタイプ・家財道具等をカードから選ぶ）」、C「必要な物の中から 1 つだけ選ぶとしたら」の 3 つの質問に沿って、写真またはカードを選んでホワイトボードに貼り、参加者全員で共有する形を取った。当初は全員に回答してもらう予定であったが、一人一人に時間を要したため、終了時間の制約から回答者は 17 名となった。

A. 住みたい住居は、アパート 6 名、マンション 4 名、一戸建て 6 名、団地 1 名であった。

B. 必要な物は複数回答のため、テレビ・ベッド・たんす等を選ぶ者が多かったが、「避難グッズ」を選んだ者が 4 名おり、自身の体験を次の生活に生かそうとしている様子が把握できた。

C. どうしても必要な物を一つだけ選ぶ問いには、テレビ 3 名、ラジカセ 2 名、携帯・電話 2 名（連絡を取るため）、たんす 2 名、ベッド 2 名、PC・ゲーム 2 名（ゲームが好きだから）、時計 1 名、掃除機 1 名（掃除が趣味のため）、カメラ 1 名であった（NA1）。

D. 上記 17 名以外の 4 名に、住む場所を「ここ（避難先）」「新しい家」の 2 つにし、それぞれどのような気持ちがするかを顔マークの絵カードから選んでもらったところ、2 名は NA であったが、2 名は「ここ」に対して「涙顔」を（1 名は「涙顔」のみ、もう 1 名は「眠い」「うーん」も選択）、「新しい家」に対して「ニコニコ顔」を選んでいった。

これらのことから、生活イメージ作りや表出されにくい感情を汲み取っていくために、絵カードや写真を用いたグルー

ワークでの支援の有効性が示唆された。

(2) 親へのヒアリング

①対象・方法

宮城県の知的・発達障害者の親 5 名を対象に実施した。震災後から今日までの生活変化、障害のある人との関係について自由に語ってもらった。

②倫理面への配慮

趣旨を分かりやすく説明し、合意を得た。

③結果

障害者の持てる力を発揮できるようにする方策（活躍の場があること・役に立つことを探す視点）を具体的化すること、被災時の家族の負担を軽減するための方策（物資配給の際に「3人分必要」等の証明書を自治体が出す）を周知する必要性が明らかになった。

2. アンケート調査

①目的・対象・方法

レジリエンスが強いタイプ・弱いタイプの特徴、ストレス要因、震災後に支援内容が変化する層の特徴を検討する。

岩手県・宮城県・福島県の被災地域の手をつなぐ育成会会員、福島県沿岸部の特別支援学校児童生徒の保護者を対象とし、郵送法により実施した。

②倫理面への配慮

調査の依頼文書にて、プライバシーの保護及び量的にのみ使用する旨を明記した。

③調査の概要

アンケート配布数：994 件（岩手県：314、宮城県：525、福島県：155）

調査期間：平成 26 年 11 月 1 日～11 月 15 日（15 日間）

回収数・率：325 件（32.7%）

質問項目：回答者の属性、現在と震災前の同居人数、震災前と今の住まい、震災前の住まいの被災状況、震災後経験した避難、転居回数、今の住居でのめど、震災前と今の相談相手、障害のある子どもとの関わり方、現在の満足度、活動量の変化、ストレス尺度、レジリエンス尺度、パニックになる等の行動をした人の人数・時期、震災後に困ったこと・時期・ほしかったサービス、子ども（障害児者）の属性、障害種別・程度、震災前といまの親との同別居、状態変化（手のかかる症状の発生）、コミュニケーション方法、震災前後のサービス利用状況、等全 25 項目。

④結果（単純集計）

回答者：20代 0.3%、30代 5.7%、40代 19.9%、50代 27.1%、60代 26.2%、70代以上 20.8%であり、男性が 15.4%、女性が 84.6%であった。

震災前の住まい：全壊 7.2%、大規模半壊 9.3%、半壊 12.1%、一部損壊 32.1%、被害なし 38.3%となっていた。

震災前の住まいの形態：持家（戸建）が 77.8%、持家（集合）が 5.5%、賃貸が 10.4%、社宅等 1.5%、公的賃貸 3.7%、その他 0.9%

現在の住まいの形態：仮設住宅 7.0%、賃貸住宅 6.3%、借り上げ・雇用促進住宅 4.3%、再建自宅 6.3%、震災前自宅 69.8%、その他 6.3%

震災後経験したもの：避難なし 48.3%、自主避難 23.1%、避難所 20.6%

この3年間で転居回数：0回 69.6%が中心

現在の住まい：震災前自宅 69.8%が中心、他は均等

今の住居での目途：立っている 65.3%、立っていない 12.8%（あまり 7.6%＋全く 5.2%）

震災前相談相手：いた 94.7%

（複数回答）：家族 72.3%、友人 47.4%、親戚 41.8%、親の会 29.8%、福祉職員 28.3%

現在相談相手：いる／92.6%

（複数回答）：家族 71.7%、友人 47.7%、親戚 40.0%、福祉職員 31.4%、親の会 30.8%

子供との関わり方（複数回答）：完全主義型 63.7%、尽くし型 61.2%、かじ取り型 58.5%、気遣い型 40.6%、控えめ型 30.5%

子供との関わり方：同じ 87.6%、違う 12.4%

満足度（不満度）：満足（1以下） 35.7%、普通 33.8%、不満（1.5～） 30.5%

活動量変化：減った（1以下） 29.9%、変化なし 24.4%、増えた（1.5～） 45.7%

ストレス尺度：弱い 58.8%、普通 23.1%、やや高い 10.8%、高い 7.4%

レジリエンス尺度：平均 50.3（SD20.0）

パニックになる等の行動をした人：～2・3ヶ月 29.3%、～1年 20.9%、最近 11.4%

障害のある子供の人数：1人 95%、2人 4.6%、3人 0.3%

子供の年代：10代、20代、30代が中心

子供の性別：男性 66.5%、女性 33.5%

障害種別・程度：知的 97.5%（最重度 9.9%、重度 48.7%、中度 27.3%、軽度 14.1%）

障害種別：てんかんあり 29.0%、精神 20.3%、身体 28.8%

自閉症：あり 35.7%（うち自閉症 93.1%、広汎性発達障害 23.3%）

現在同居状況：別居 16.8%（うち GH・CH 28.6%、入所施設 60.7%）

震災前同居状況：別居 13.3%（うち GH・CH 25.0%、入所 65.9%）

子供の状況変化：地震を恐がる 45.6%、親と一緒にいたがる 43.2%、睡眠の問題が生じた 18.2%、落ち着きがなくなった 17.9%

子供の状態：奇声 20.9%、睡眠障害 15.9%、多動 15.0%、自傷・他傷 13.5%

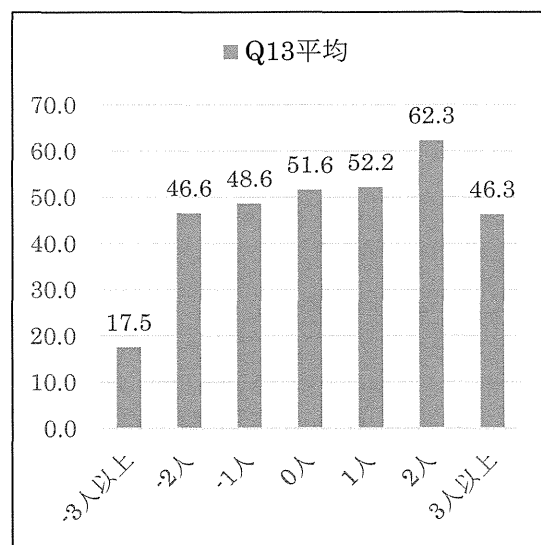
子供とのコミュニケーション：言葉 48.8%、カタコト 29.7%、全くなし 16.6%、独り言 4.9%

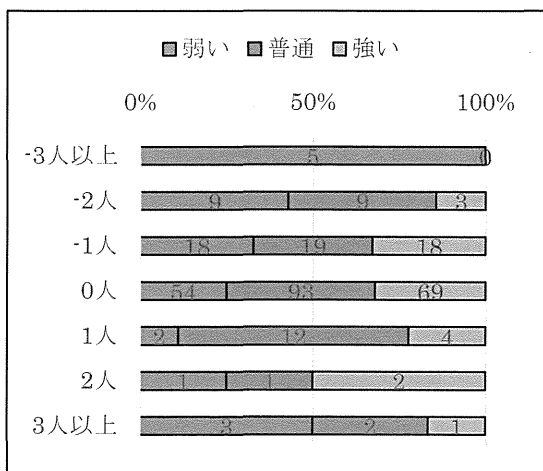
⑤結果（クロス集計）

a. レジリエンスが弱くストレスが高い人の特徴

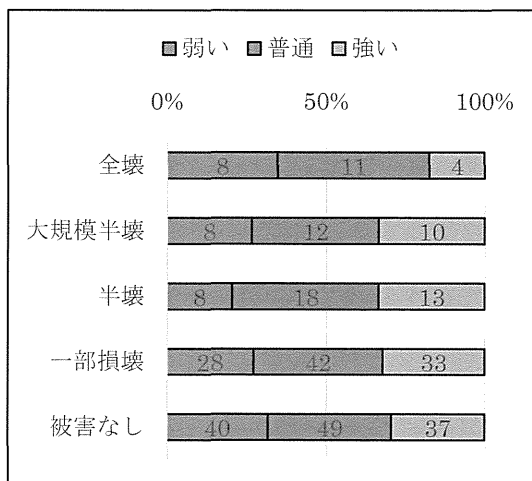
* 図中の Q13 とはレジリエンスを尋ねた項目のことである

○同居人数が減った

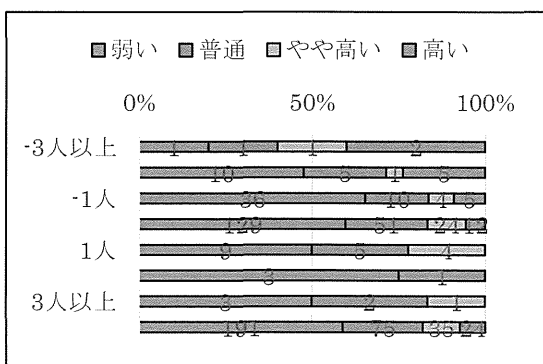




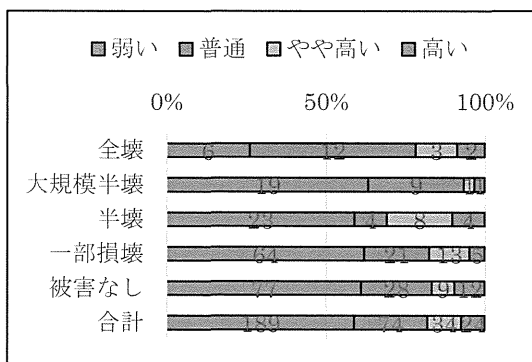
*レジリエンス得点が、家族が減った場合に低く、得点を3レベル（強い・ふつう・弱い）に分けた場合に「弱い」に該当する者が多い。



*レジリエンス得点が、住まいの被害が大きい場合に低く、弱い人の割合が多くなっている。

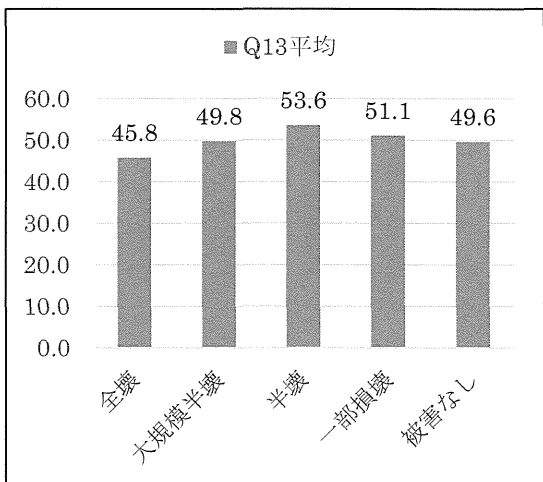


*ストレス尺度の得点は、家族の数が減る程に「高い」の割合が多くなっている。

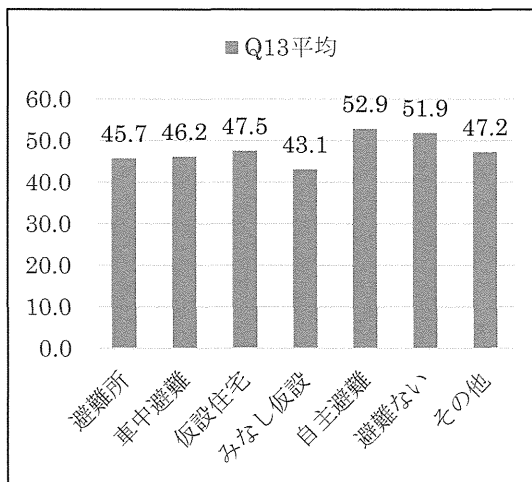


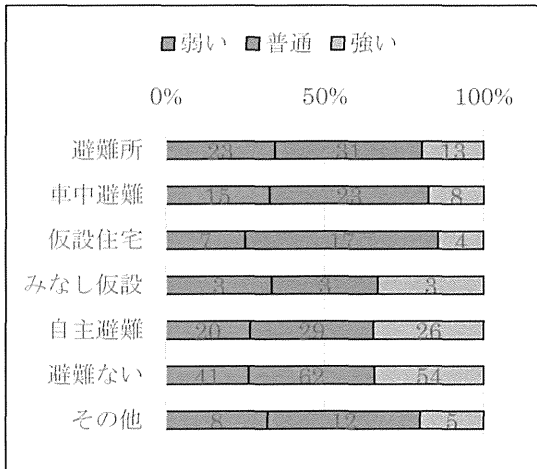
*ストレス尺度については、全壊の場合に「弱い」が少なくなっている。「高い」の割合についてはばらつきがある。

○震災前の住まいが全壊した

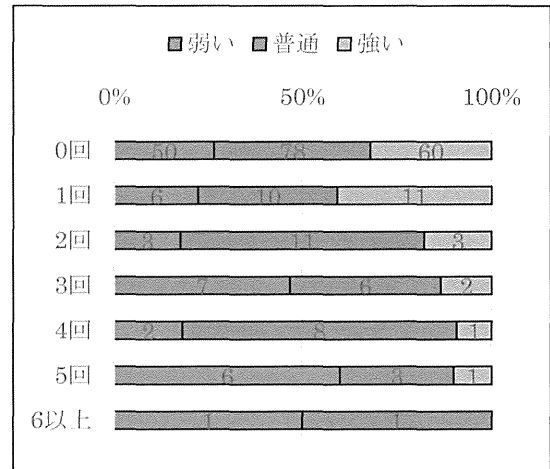


○避難を経験した

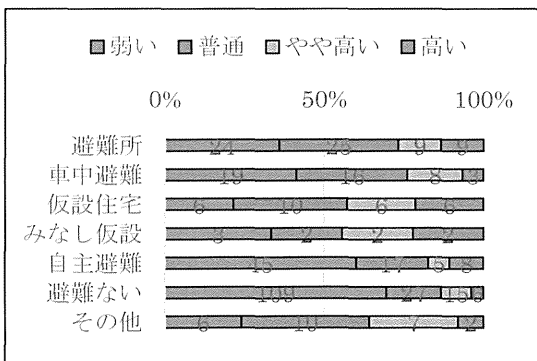




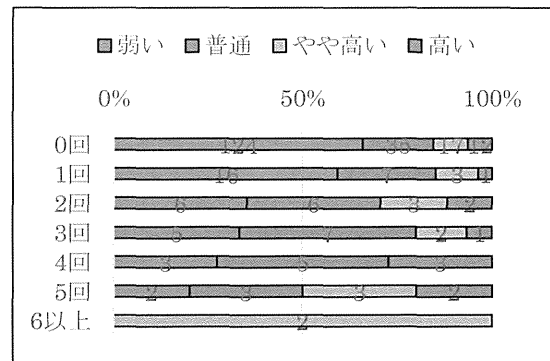
*レジリエンス得点は、避難を経験した群（避難所・車中避難）において、避難しない群よりも平均点が低くなっている。



*レジリエンス尺度は、転居の数が多くなると低くなる傾向がみられる。

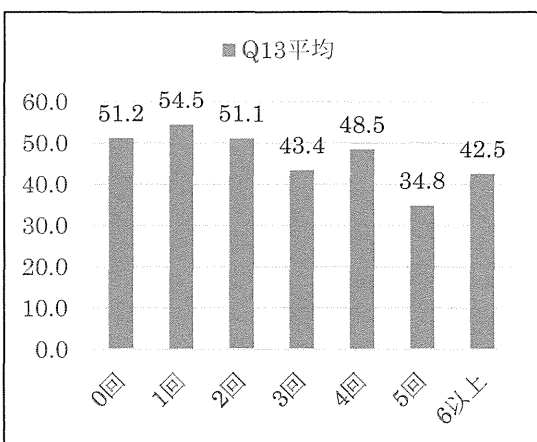


*ストレス尺度の得点は、避難を経験した群の方がしない群よりも高くなっている。

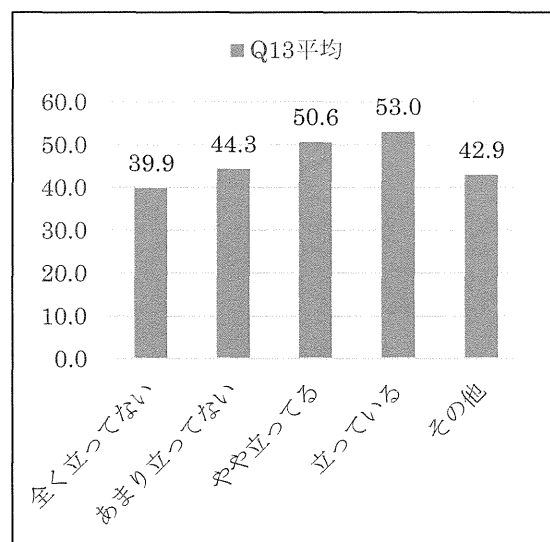


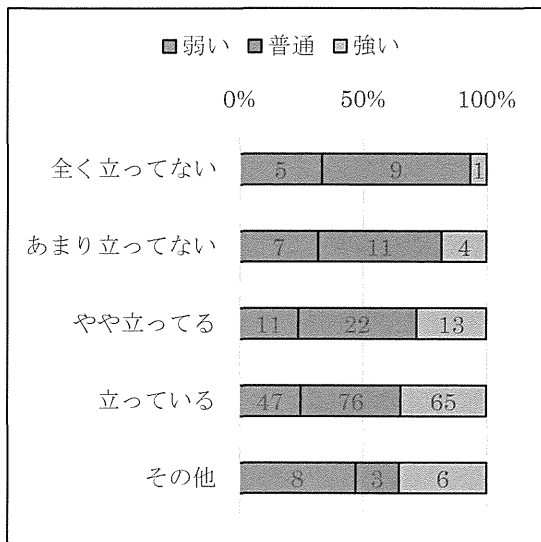
*転居の数が多くなるほど、ストレスが高くなる傾向がある。

○転居回数が多い

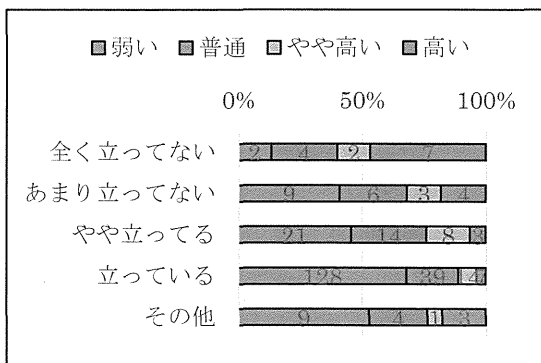


○現在の住居でのめどが立っていない



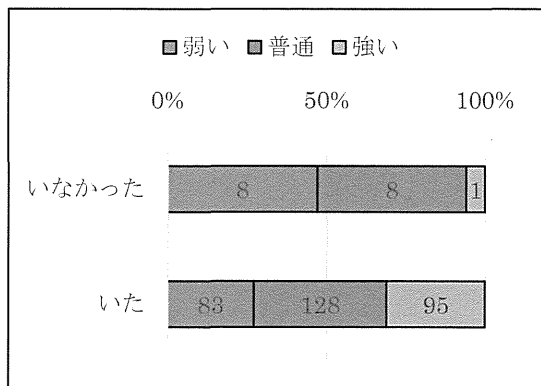
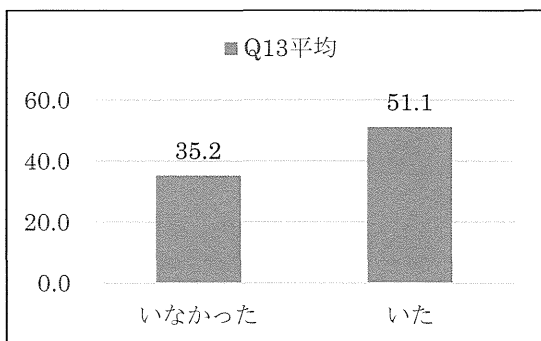


*レジリエンス得点は、めどが立っていないほど低くなっている。

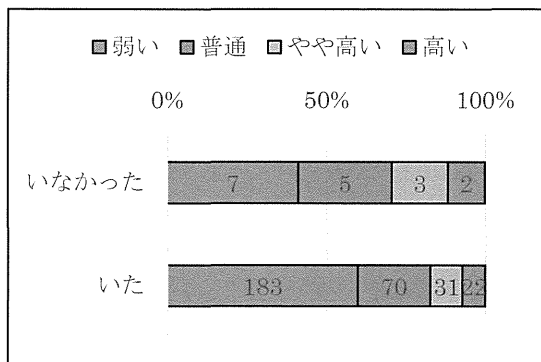


*ストレスは、めどが立っていないほど高くなっている。

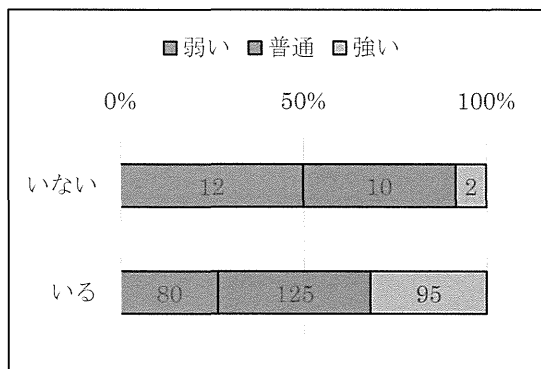
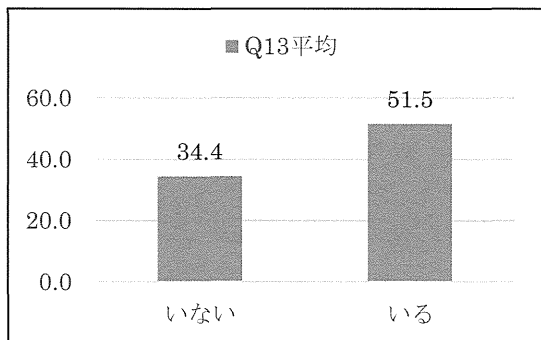
○震災前・現在において相談相手がいない



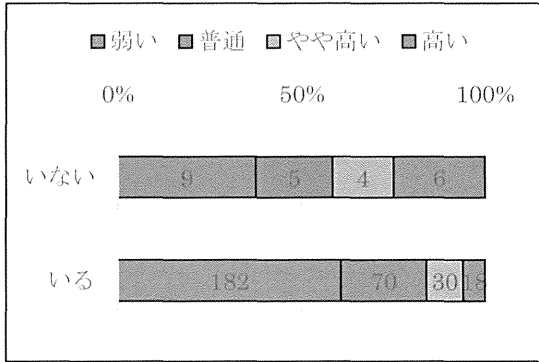
*レジリエンス得点は、いなかった方が低くなっている。



*ストレスが高い人の割合は、いなかった場合の方が多い。

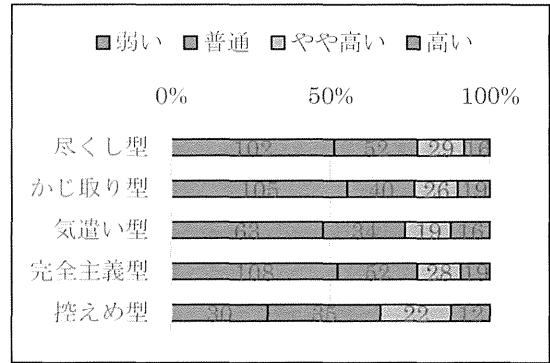
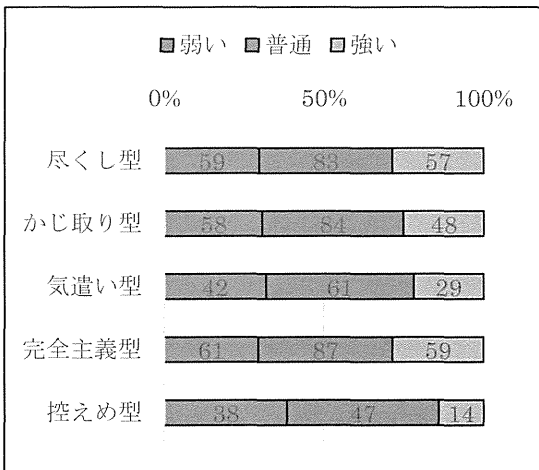
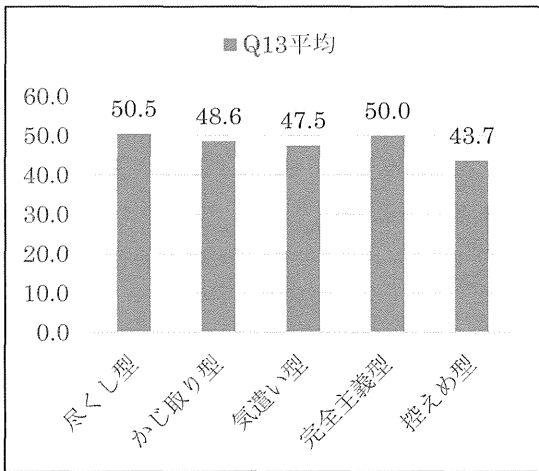


*レジリエンス得点は、いない場合の方が低くなっている。



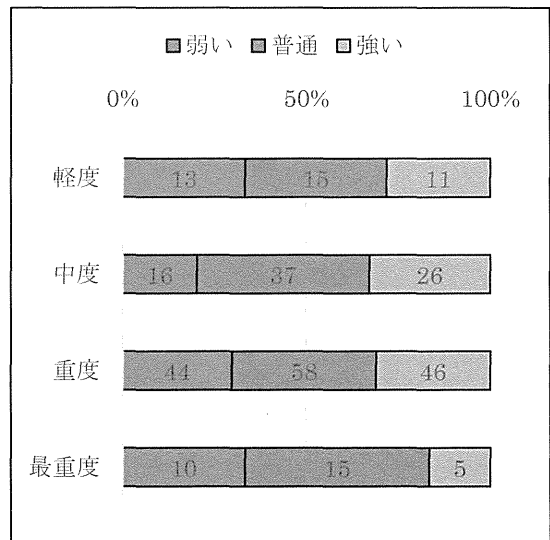
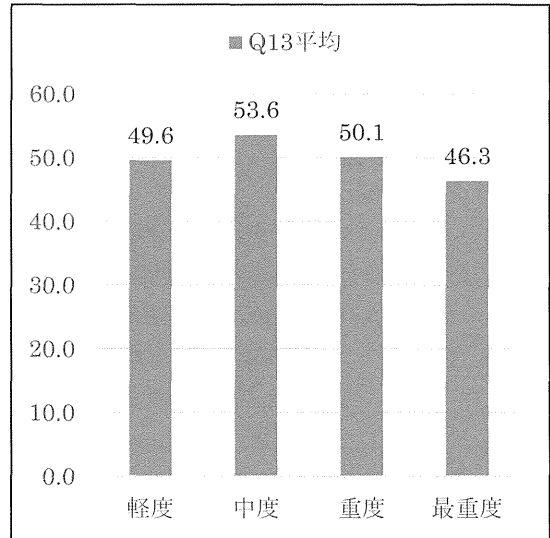
*ストレスが高い人の割合は、いない場合の方が多くなっている。

○障害のある子どもとのかかわり方が
‘控えめ型’である

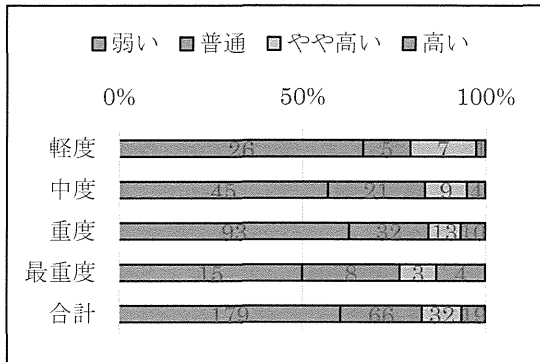


*レジリエンスが低く、ストレスが高い人の割合が多いのは、「控えめ型」である。

○知的障害が最重度である

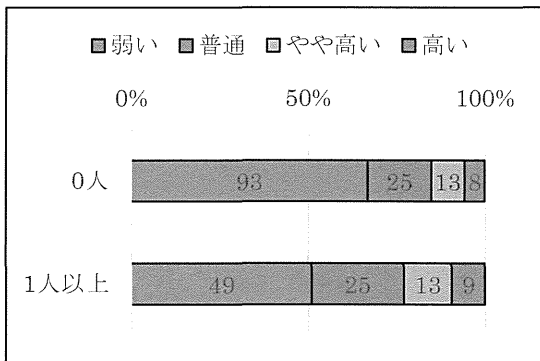


*知的障害が最重度の場合に、レジリエンス得点が低くなっている。



*ストレスが高い人の割合は、最重度が一番多くなっている。

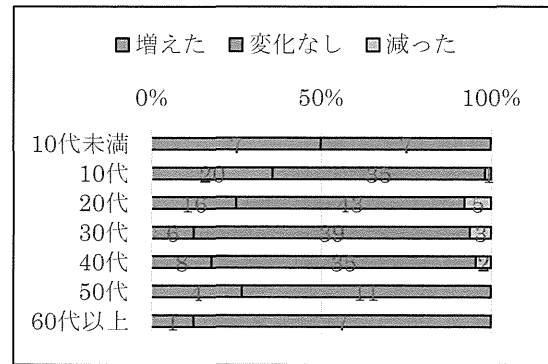
○震災直後から2・3カ月の間にパニックになる等の行動をする人が家族にいた



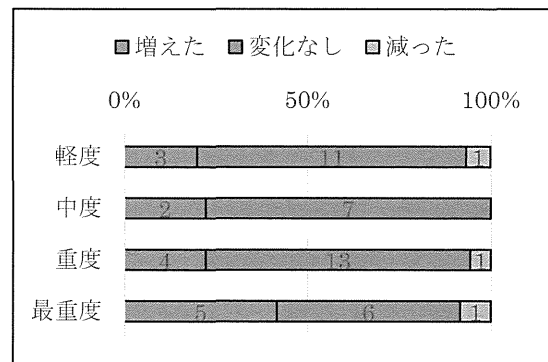
*発災後～2・3ヵ月以内に、パニックになる等の行動をした人が1人以上いた場合、ストレスが弱い人の割合が低い。

b. サービス利用量と特徴

震災後に支援の質が変わる層の特徴を抽出したところ、「障害児者の年齢が10代未満・10代」「身体障害が最重度」「自閉症・広汎性発達障害」の場合に、サービス利用量が増える傾向が認められた。

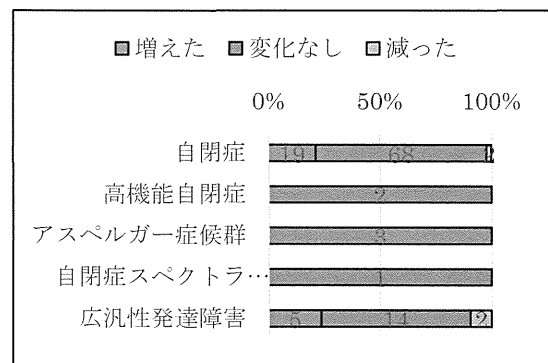


*子どもの年齢によるサービス利用料の変化についてみると、10代と10代未満が増えた人の割合が多い。



*身体障害が最重度の場合に、サービス利用量が増えている。

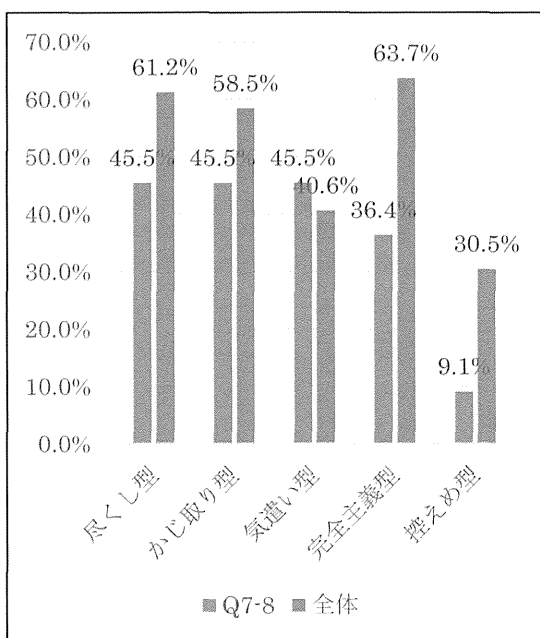
*知的障害の場合、利用量が増えた人の割合は障害程度とはあまり関係がない。



*自閉症と広汎性発達障害の場合に、利用量が増えている。

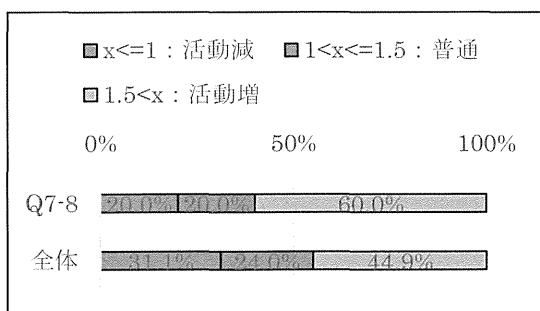
c. 住居でのめどが立っていないのにストレスが弱い人の特徴

○子どもとの接し方



*全体傾向と比較した際、完全主義型、および控えめ型が顕著に少なくなっている。自分にあまり厳しくなく、人の目を気にしすぎないタイプであることが考えられる。

○活動量



*活動が増えた方が60.0%となっており、全体傾向(44.9%)と比較してもかなり多くなっている。

d. 相談相手がいるのに、ストレスが高い人の特徴

○子どもとの接し方：全体傾向と比較したとき、かじ取り型、気遣い型、完全主

義型、控えめ型が多く、尽くし型のみが全体傾向とほぼ同等であった。

○子どもの状況の変化：状態の悪化があった方は72.2%となっており、全体傾向(58.3%)と比較して多くなっている。

○震災前との活動量変化：活動減が77.8%となっており、全体傾向(31.1%)と比較して圧倒的に活動量が減少している方が多くなっている。

3. まとめ

(1)障害者の生活再建過程においては、当事者抜きで物事が決められてしまい、その結果当事者が不適応を起こす場合も少なくない。障害者の福祉サービス・障害福祉施設等の活用と役割を考える際には、知的障害者及び家族のエンパワメント方法を組み込む必要があり、本研究において示されたエンパワメント・意思決定支援方法及び合理的配慮は、被災後のみならず平時の地域移行支援にも役立つものと考えられる。

(2)被災した障害児者の親の状態を、信頼性の高いストレス尺度及びレジリエンス尺度を用いて数値化した研究は他にはない。被災後の生活再建過程において、障害者親の会としての支援を行う際に、特に気をつけるべきタイプがいくつか判明したことは、ガイドライン作りに大いに役立つものと考えられる。また、全体のレジリエンス平均が先行研究に比して低い傾向があり、障害のある子どもとの関わり方とも関連があるなど、障害児者の親への支援方法について新たな知見を得ることができた。

アンケート分析結果 コメント一覧

I. 単純集計

- ・ Q1 年代：40・50・60・70代が中心
- ・ Q2 性別：女性が84.6%
- ・ Q4 現在の仕事：無職が53.9%、臨時雇用が20.9%
- ・ Q5 現在の同居人数：2人／34.2%、3人／25.2%が中心
- ・ Q6 震災前の同居人数：2人／32.8%、3人／26.9%が中心
- ・ 震災前と現在の同居人数の差異（Q6-Q5）：減った／25.4%、増えた／8.8%、変化なし／65.9%
- ・ Q7-2 震災前のお住まい：持家（戸建）／77.8%が中心
- ・ Q7-3 震災前住まいの状況：被害あり／60.7%（全壊／7.2%＋大規模半壊／9.3%＋半壊／12.1%＋一部損壊／32.1%）、被害なし／39.3%
- ・ Q7-4 震災後経験したもの：避難なし／48.3%、自主避難／23.1%、避難所／20.6%
- ・ Q7-5 この3年間での転居回数：0回／69.6%が中心
- ・ Q7-7 現在のお住まい：震災前自宅／69.8%が中心、他は均等
- ・ Q7-8 今の住居での目途：立っている／65.3%、立っていない12.8%（あまり／7.6%＋全く／5.2%）
- ・ Q8-1 震災前相談相手：いた／94.7%
- ・ Q8-1' 震災前相談相手（複数回答）：
 - ① 家族／72.3%
 - ② 友人／47.4%・親戚／41.8%
 - ③ 親の会／29.8%・福祉職員／28.3%
- ・ Q8-2 現在相談相手：いる／92.6% ※微減
- ・ Q8-2' 現在相談相手（複数回答）：
 - ① 家族／71.7%
 - ② 友人／47.7%・親戚／40.0%
 - ③ 福祉職員／31.4%・親の会／30.8%
- ・ Q9-1 子供との関わり方（複数回答）：
 - ① 完全主義型／63.7%・尽くし型／61.2%・かじ取り型／58.5%
 - ② 気遣い型／40.6%
 - ③ 控えめ型／30.5%
- ・ Q9-2 子供との関わり方：同じ／87.6%、違う／12.4%
- ・ Q10 満足度（不満度）：満足（1以下）／35.7%、普通／33.8%、不満（1.5～）／30.5%
- ・ Q10 満足度（不満度）科目別：
 - ① 家計の状況／1.46、自分の健康／1.45、子供の状況／1.41
 - ② 自分の仕事／1.20、家庭生活／1.16
- ・ Q11 活動量変化：減った（1以下）／29.9%、変化なし／24.4%、増えた（1.5～）／45.7%

- ・ Q11 活動量科目別：
 - ①周囲とうまく付き合う／1.65
 - ②仕事の量／1.53、活動的な生活／1.51、日常生活／1.46、生きがい／1.40
 - ③元気ではつつ／1.27、将来明るい／1.09
- ・ Q12 ストレス尺度（SRS-18）：弱い／58.8%、普通／23.1%、やや高い／10.8%、高い／7.4%
- ・ Q13 レジリエンス尺度：平均 50.3（SD20.0）
 - ※大学生（平均 20.1 才） 55.8、大學生（平均 38.9 才） 64.3、オーストラリア大学生 69.1、アメリカ大学生 75.7、地震で親を亡くした思春期（中国）約 50、うつ病（韓国）約 46
- ・ Q14 パニックになる等の行動をした人：～2・3ヶ月／29.3%、～1年／20.9%、最近／11.4%
- ・ Q16 子供の人数：1人／95%、2人／4.6%、3人／0.3%
- ・ Q16 子供の年代：10代、20代、30代が中心
- ・ Q17 子供の性別：男性／66.5%、女性／33.5%
- ・ Q18 障害種別・程度：知的／97.5%（最重度／9.9%、重度／48.7%、中度／27.3%、軽度／14.1%）
- ・ Q18 障害種別：てんかんあり／29.0%、精神／20.3%、身体／28.8%
- ・ Q18 自閉症：あり／35.7%（うち自閉症／93.1%、広汎性／23.3%）
- ・ Q19-1 現在同居状況：別居／16.8%（うち GH・CH／28.6%、入所／60.7%）
- ・ Q19-2 震災前同居状況：別居／13.3%（うち GH・CH／25.0%、入所／65.9%）
- ・ Q20 子供の状況変化
 - ①地震を恐がる／45.6%、親と一緒にいたがる／43.2%
 - ②睡眠の問題が生じた／18.2%、落ち着きがなくなった／17.9%
- ・ Q21 子供の状態：奇声／20.9%、睡眠障害／15.9%、多動／15.0%、自傷・他傷／13.5%
- ・ Q22 子供とのコミュニケーション：言葉／48.8%、カタコト／29.7%、全くなし／16.6%、独り言／4.9%